

平成26年度

事業報告書

社会福祉法人 宇多津町社会福祉協議会

平成26年度 宇多津町社会福祉協議会事業報告

1. 概況

急速な少子高齢化の進展により、核家族が主流となってきたが、今後は、高齢世帯の増加が見込まれ、加えて、家族の機能を補い、ともに支え合ってきた地域社会の助け合いも以前ほど期待できなくなっており、連帯感の希薄化などに伴い、これまでの福祉制度の枠組みだけでは、対応が難しい問題が残され、様々な形で町民生活に不安を生み出している。町社協においても事業の見直しや再構築が急務となっております。

このような中、社会福祉協議会では、町からの委託事業として「地域福祉推進事業」や「地域支え合い事業」、「ファミリー・サポート・センター事業」に取り組み、各種福祉施策の拡充を図ると共に、介護保険事業、障害者自立支援事業の充実を行い、地域住民の理解と協力を得て、明るい地域福祉を推進し「地域の誰もがその人らしく安心して、安定した生活ができる」福祉社会の実現を目指し、次の7項目の事業を重点に実施した。

- (1) 地域福祉の推進
- (2) 介護保険事業の充実
- (3) 障害者自立支援事業の充実
- (4) ボランティア活動の推進
- (5) 福祉関係団体等活動協力と連携
- (6) 法人運営の強化
- (7) その他福祉活動への協力

2. 事業経過報告

(1) 地域福祉の推進

① ふれあいいきいきサロンの推進

町内の高齢者や障害者等、地域の中で孤立して閉じこもりぎみに暮らしている人たちが、いきいきと元気に暮らせることを目的としてサロン活動を行った団体に共同募金の配分を利用して補助を実施した。

年度毎の箇所数は次のとおりであり、26年度は2箇所増である。

年 度	箇所数
平成22年度	19

平成23年度	20
平成24年度	20
平成25年度	21
平成26年度	23

また、年4回のプログラムメニュー研修会を実施し、各サロンがより魅力的な運営ができるよう役立てた。

平成26年5月13日(火) 研修会(ネッククーラーづくりと健康体操) 62人

平成26年9月9日(火) 研修会(スロートレーニングで若返り!) 60人


平成26年11月7日(金) 研修会(災害時の応急手当を学ぼう!

～身近なものでできる応急手当の方法～)34人

平成27年3月5日(木) 研修会(～世界中の音楽を楽しみながら

踊りましょう～) 34人

② 共生型サロンの推進

前年度に引き続き、毎月第1・第3水曜日、地域で暮らす高齢の方も、子育て中の親子も、障がいのある方も、誰でもが自由に集い交流するみんなのサロン「とも  とも」を開設した。

サロンでは、四国医療専門学校や香川短大の学生との交流、体操や音楽、バルーンアート、季節行事(流しソーメンと盆踊り、もちつき大会、)等を行い、サロン活動を通して、町内で声をかけ合える関係が深まっている。

【みんなのサロン 参加人数】 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
親	12	11	13	8	34	3	13	11	16	30	20	16
子ども	16	12	14	9	77	3	16	14	19	63	26	23
高齢者	29	36	26	30	27	30	27	25	30	28	38	32
V0・スタッフ	11	28	11	8	32	8	22	20	7	24	11	30
合計	68	87	64	55	170	44	78	70	72	145	95	101

③ 各種相談事業の実施

民生児童委員会、弁護士及び身体障害者相談員の協力を得ながら次の6種類の相談事業を実施した。

相談の種類	相談員	相談日	相談実績
一般相談	民生児童委員	毎週火曜日	4件

弁護士相談	安西弁護士	2カ月に1回	40件
身体障害者相談	県身体障害者相談員	第3金曜日	0件
介護相談	訪問介護員（ヘルパー）	月曜日～金曜日	198件
ボランティア相談	ボランティアコーディネーター	月曜日～金曜日	17件
電話相談	社協事務局	月曜日～金曜日	527件

相談件数は、全体的に増加し、特に電話による、日常生活に関する相談が増えている。

⑤ 生活福祉資金の効果的運用

県社協の委託事業として、生活福祉資金の貸し付け事業を実施した。新規借入件数は、9件から17件に増え、特に生活保護を申請し、受給できるまでの間を支援する等の緊急小口資金が7件から13件と増加し、生活保護世帯が増えている現状である。資金ごとの貸し出し状況は次のとおりである。

〈生活福祉資金貸付事業〉

借入資金の種類	年度末 件数	26年度中 新規借入件数	25年度中 新規借入件数
総合支援資金	20件	0件	1件
緊急小口資金	15件	13件	7件
臨時特例つなぎ資金	0件	0件	0件
教育支援資金	7件	3件	1件
福祉資金	17件	0件	0件
不動産担保型生活資金	0件	0件	0件
国民年金の任意加入を含む年金の貸付	1件	1件	0件
計	60件	17件	9件

⑥ 日常生活自立支援事業の実施

県社協の委託事業として、高齢者や知的・精神障害者で判断能力に不安がある人を対象に金銭管理・福祉サービスの手伝いを行う日常生活自立支援事業を実施した。年度ごとの利用者状況は次のとおりである。

年度	高齢者	知的障害	精神障害	その他	計
平成23年度	6	1	8	0	15
平成24年度	9	1	11	0	21
平成25年度	10	1	11	0	22
平成26年度	10	1	11	1	23

利用者が年々増加傾向にある。
 本町では、高齢者の認知症や身内からの金銭詐取があるなど、複合的な問題を抱えるケースも多く、関係機関との連携が重要になってきている。

⑦ 高齢者福祉サービス事業の充実

在宅の高齢者及び障害者の日常生活や自立に向けた取り組みを支援するために次の事業を実施した。

区 分	老人給食サービス事業	車椅子貸出事業	公衆浴場サービス	うたんぐら
平成 22 年度	5,067 食 (120 名)	42 名	101 名	5 名
平成 23 年度	4,936 食 (120 名)	31 名	一名	4 名
平成 24 年度	4,870 食 (120 名)	29 名		3 名
平成 25 年度	4,785 食 (116 名)	41 名		3 名
平成 26 年度	5,096 食 (117 名)	40 名		2 名
備 考	毎週水曜日配食 (月 4 回)			毎週 3 回 月・水・金

〈高齢者見舞金事業対象者〉

区 分	一人暮らし老人 (80 歳 以上)
平成 22 年度	134 名
平成 23 年度	142 名
平成 24 年度	144 名
平成 25 年度	149 名
平成 26 年度	155 名

老人給食サービスについては、配食していただくボランティアの募集など、当日の配食に支障のないように努めた。車椅子の貸し出しについては、長期の貸し出しから、本来の利用目的である、短期の利用にシフトしている。

また、共同募金の助成金により、高齢者見舞金配布事業を実施し、80 歳以上の一人暮らし高齢者に対し、3 千円を民生児童委員の協力により配布した。

⑧ ファミリー・サポート・センター事業

地域の方が会員となって、一時的な子育てを助け合う有償ボランティア組織。

- ・平成 26 年度登録会員数、活動件数、援助活動内容と件数の内訳

登録会員数 (平成 26 年 4 月～ 平成 27 年 3 月末)	おねがい会員	1 4 4 名	合 計 2 6 2 名
	まかせて会員	8 6 名	
	どっちも会員	3 2 名	
活動実績 (平成 26 年 4 月～ 平成 27 年 3 月末)	援助活動件数の内訳		活動件数
	① 塾への送迎		8 9 件
	② 放課後児童クラブへの送迎とその後の預かり		8 9 件
	③ 保育施設への送迎とその後の預かり		3 9 2 件
	④ 保護者の外出の時の預かり		7 9 件
	⑤ 保護者の仕事のための預かり		2 5 件
	⑥ 他の子ども学校行事の場合の預かり		4 件
	⑦ 児童サービスへの送迎とその後の預かり		2 6 件
	合 計		7 0 4 件

・平成 26 年度研修会、交流会回数と内容

	回 数	参加人数	内 容
研修会	4 回	1 6 0 名	1 回（3 日間講座）丸亀・坂出合同開催
交流会	8 回	2 0 8 名	ともとも合同交流会
講演会	2 回	2 4 名	

前年度（25 年度）の活動件数が、213 件に対し、今年度は 3 倍以上の 704 件に増加し、子育て支援ニーズが急増している。今後も引き続き預かり時の事故防止等の講習会を充実させるとともに、研修会の時間数も厚生労働省の推奨される時間数に近づけたい。

(2) 介護保険事業（ホームヘルパー）の充実

① 訪問介護事業の充実

今年度は収入で 2.6% の増、利用者の延べ人数も 11% の増となっている。

介護保険制度に適應しない部分を補うための軽度生活援助事業が増額となっている。今後も、一層のサービスの向上と利用者の確保を図り、更なる収支の改善を図っていききたい。

(単位：千円・人数)

年 度	訪問介護事業収入	前年比	延べ人数	軽度生活支援事業収入
平成 22 年度	10,991	8.1%	358	1,122
平成 23 年度	11,571	5.3%	402	949

平成 24 年度	12,134	4.9%	360	923
平成 25 年度	9,711	▲20.0%	322	712
平成 26 年度	9,957	2.6%	380	1,195

② 居宅介護支援事業の充実

居宅介護支援事業の利用者及び事業収入の推移は次のとおりである。延人数は、27.4%の減少であり、介護予防の利用者数が全体の30%を占めている。収入も前年度比15%と減少している。原因として、利用者数が激減したためである。内訳として長期入院、入所等が7名、転居者、3名、死亡者3名である。また、居宅介護支援専門員の常勤換算数(1カ月の稼働時間160時間を一人とする)の推移は平成22年度、3人、平成23年度～25年度においては、2.4人、昨年は1.4人であった。

(単位：千円・人数)

年 度	事業収入	前年比	対象者数(延人)
平成 22 年度	4,471	▲12.7%	578
平成 23 年度	4,818	7.8%	585
平成 24 年度	5,973	24.0%	692
平成 25 年度	6,014	0.7%	781
平成 26 年度	5,086	▲15.4%	567

(3) 障害者自立支援事業の充実

① 障害者福祉サービスの充実

居宅介護等が減少しているのは障害者保険から介護保険への移行や、施設入所による原因による減となっている。各年度のサービスごとの収入の推移は次のとおりである。

(単位：千円)

年 度	居宅介護	移動支援	同行援護	難病患者等	計
平成 22 年度	1,942	393	0	0	2,335
平成 23 年度	2,478	209	0	18	2,705
平成 24 年度	2,403	525	0	207	3,135
平成 25 年度	2,467	880	39		3,386
平成 26 年度	1,906	675	30		2,611

(4) ボランティア活動の推進

① ボランティア連絡協議会への参加及び協力

事務局として、毎月の定例会、総会及び講演会等に参加しボランティア活動を推進した。

平成26年5月18日(日) 防災講演会

(防災カードゲーム・クロスロードを通じて南海トラフ巨大地震に備える)

80人

平成27年2月11日(水) 防災研修会

(災害ボランティアセンター運営研修会)

60人

加入団体は、25団体となっている

② 福祉・ボランティア体験の推進

福祉・ボランティア体験としてうたづっこふくしセミナーの開催、ボランティア体験の実施、福祉体験学習、ボランティア銀行の運営を次のとおり実施した。

□ うたづっこふくしセミナー

	日 時	場 所	講 演 内 容	参 加 人 数
第10回	7 / 27	保健センター	中学生位までの児童・生徒を対象とした福祉体験セミナー	約330名

□ 夏休み中学生ボランティア体験学習

17の行事が延べ44日間行われ、約356人がボランティアとして参加した。町や社協事業以外にも各種団体のボランティアにも参加している。今後も学校と連携を取りながらボランティア活動を推進していく。

	日 時	場 所	学 習 内 容	参加人数
1	7 / 20 他1回	JR 駅前清掃	駅前清掃ボランティア体験	140名
2	7 / 23 他4回	福祉センター	老人給食配達ボランティア体験	17名

3	7 / 2 2	県道 33 号線	さわやかロード清掃活動	1 1 名
4	7 / 2 9	サポートセンター	はぐはぐランド宇多津での乳幼児との交流体験	1 5 名
5	7 / 3 1	NPO メロディー	障がい児との交流	2 名
6	7 / 2 2 他 1 回	宇中美術室	高齢者のために絵手紙づくり	2 2 名
7	7 / 2 3 他 1 回	ユープラザ他	夏休み宿題お助け隊	8 名
8	8 / 1 9 他 4 回	宇夫階神社他	うたづ寺子屋ボランティア	1 8 名
9	7 / 2 7	保健センター	うたづっこふくしセミナー	2 6 名
1 0	7 / 2 0 他 1 回	社会福祉協議会	日曜サロン・日曜市の手伝い	2 1 名
1 1	8 / 2 6	保健センター	親子クッキングの手伝い	6 名
1 2	8 / 2 8	ユープラザうたづ	ピッコロショー腹話術の手伝い	8 名
1 3	7 / 2 8 他 3 回	NPO あいあい	夏祭り手伝い高齢者との交流体験	1 7 名
1 4	8 / 2 2	ドリームパラダイス	こどもとのうどん作り体験	4 名
1 5	7/22～ 8/29	中学校	校内プランタンの水やり	1 2 名
1 6	8 / 2 9	中学校	新体育館周辺の草抜き	1 9 名
1 7	8 / 6 他 1 回	やすらぎプラザ	みんなのサロン「ともとも」 高齢者、乳幼児と交流	1 0 名

延べ：4 4 日

延べ：3 5 6 名

□ ボランティア銀行の運営

ボランティア銀行の預金額は、昨年の 862,128 ハートから 883,463 ハートへ増加しており、小・中学生のボランティア活動の輪が広がってきている。今年度は、1 ハートを 0.5 円で換算し、預金額 442,000 円の内 300,000 円の払い戻しを行います。残額の 142,000 円については、小・中学校応援プロジェクト募金より支出

致します。

学校名	預金額(ハート)	払い戻し額(円)
宇多津小学校	273,529♡	137,000
宇多津北小学校	451,934♡	226,000
宇多津中学校	158,000♡	79,000
合 計	883,463♡	442,000

③ 災害ボランティアセンターの推進

防災講演会と防災研修会を開催した。

詳細は次のとおりである。

	日 時	場 所	講 演 内 容	参加人数
第1回	5 / 1 8	保健センター	防災シュミレーションゲーム 「クロスロード」の体験	80名
第2回	2 / 1 1	保健センター	災害ボランティアセンター 運営研修会	60名

(5) 福祉団体等活動協力と連携

① 民生児童委員協議会との連携

社会福祉協議会の運営において、民生児童委員との連携・協働は重要であり、相談事業をはじめとして、高齢者・一人暮らし老人の情報の共有、老人給食サービスの配食、高齢者見舞金配布事業、共同募金活動、生活福祉資金貸付業務等において協力を得て事業を実施した。事業ごとの実績については、他の項目で記載した。

② 老人クラブ・身体障害者協会への参加協力

老人クラブ・身体障害者協会の事務局として、総会・定例会、各種行事への協力及び文書管理を行った。

③ 福祉団体への援助

ボランティア連絡協議会加盟の団体へ各種補助金の情報提供等行った。

(6) 法人運営の強化

① 自主財源の確保

社協会員の増加と香典返し等寄付金の使途の明確化を行う中で自主財源の確保に努めた。年度ごとの状況は次のとおりである。

(会員数の推移)

年 度	社協役員	団体会員	個人会員	合計	会 費 円
平成21年度	25名	489名	60名	549名	137,800
平成22年度	25名	552名	69名	646名	172,600
平成23年度	25名	630名	193名	848名	221,000
平成24年度	24名	709名	125名	858名	226,000
平成25年度	24名	863名	73名	936名	242,200
平成26年度	25名	813名	188名	1,026名	264,700

(寄付金の推移)

年 度	香典返し		一般寄付		合計金額
	件 数	金 額	件 数	金 額	
平成22年度	24	1,145,000	10	146,261	1,291,261
平成23年度	20	720,000	11	135,316	855,316
平成24年度	22	928,000	9	111,000	1,039,000
平成25年度	20	680,000	7	108,000	788,000
平成26年度	17	350,000	10	453,000	803,000

会員数は、個人会員を中心に増加しているが、他市町社協と比較して、会員数、会費収入とも少なく、今後も社協運営の体質強化を図る上で中心的に取り組む必要がある。

寄付金については、香典返し寄付金が減少しており、より一層、広報(社協通信)で使い道を明確にし、社協の事業への住民の理解を広める必要がある。

② 広報・啓発活動(情報誌 社協通信の発行)

社協事業を広く町民に周知する目的で情報誌「社協通信」を毎月発行し町広報と同時に配布した。

③ 各種研修会等への参加

社協職員の資質向上を目指して県社協、県施設協会等の研修会に参加した。特に、日常生活自立支援事業では、精神障害者に対する専門知識も必要になってきており、専門員及び支援員の研修会に参加した。

今後も香川県社会福祉協議会等が開催する研修について、積極的に参加し、専門知識の取得を図っていく。

(7) その他福祉活動への協力

① 共同募金運動への協力

宇多津町共同募金委員会に協力して、街頭募金運動・歳末たすけあいチャリティ即売会等の募金活動に参加し、目標額4,128,000円に対し4,156,093円を集め、県共同募金会に送金した。又、全国のモデル事業である期間拡大による募金活動「宇多津町内小・中学校応援プロジェクト募金」を1月1日から3月31日まで実施し、目標額900,000円に対し1,407,973円を集め県共同募金会に送金した。一般募金、プロジェクト募金とも25年度の募金額を上回り、10年連続で募金額増加を達成した。本町への助成金は地域福祉推進事業として、2,554,816円、小・中応援プロジェクト事業として1,368,447円であり以下の事業を実施した。災害見舞金は、今年度該当がなかった。

社会福祉協議会事業

番号	事業名	事業内容	助成額
1	ふれあいいきいきサロン事業	ふれあいいきいきサロン活動助成費用（1団体年間1.2万円～2万円）	232,000円
2	ボランティア活動推進助成事業	ボランティア活動保険料 ボランティア連絡協議会活動費用	269,000円
3	一人暮らし高齢者見舞金配布事業	80歳以上の1人暮らし高齢者のお見舞金費用	302,816円
4	心配ごと相談事業	弁護士相談費用	80,000円
5	ボランティア養成事業	ボランティア活動を行う人材を養成する講座の開催	30,000円
6	日常生活支援事業	自宅にお風呂のない高齢者にお風呂を週3回提供する事業の実施	81,000円
平成26年度 社会福祉協議会事業 助成額合計			994,816円

各種団体への助成金

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	子育て支援推進事業 サポートママ「モコモコ」	核家族化が進む新都市を中心に、地域の人が交流できるイベントを開催し、交流の場を提供する。	197,000円

2	身障者外出支援事業 身体障害者協会	身体障害者の外出を支援することにより、社会参加を促し、会員同士の親睦を深める活動	30,000 円
3	母子家庭等支援事業 母子寡婦福祉会(ひまわり会)	ハイキング、クリスマス会等を開催することで、ひとり親家庭の親子の絆を深め、就職活動にも結び付ける	80,000 円
4	施設訪問事業 (ゆかいな仲間たち)	町内の福祉施設の訪問し、レクリエーション活動、体験交流活動を行い、高齢者との交流を深める	40,000 円
5	障がい児支援事業 (NPO 法人メロディ)	障がいを持つ困った感を抱える人や保護者や彼らを支えようとする周りの人たちに情報を提供する講演会や勉強会を開催する	150,000 円
6	障がい児・軽度発達障がい児支援事業 (親子クラブわくわく)	同世代の子どもと同じことができないという悩みを抱えている家庭に専門医を講師に迎え研修会を開催する	40,000 円
7	環境衛生推進事業 (宇多津町婦人会)	町民にゴキブリ団子を配布することにより、衛生管理に対する意識を高め、地域の衛生環境を整える。	160,000 円
8	コンポスト普及推進関連事業 (若妻の会)	コンポストを普及させることにより自治体のゴミ処理費用の削減に取り組み、家庭での環境に対する意識の高揚を図る。	150,000 円
9	子育て支援事業 (あおやま保育園)	絵本を通して地域福祉活動に関心を持ってもらい、家庭、保育園、地域が連携して子育ての輪を広げる取組み。	115,000 円
10	子育て支援事業 (青山幼稚園)	子ども達の想像力や思考力を育てるための読み語り用の絵本やパネルシアターの購入。	117,000 円
11	住みよい町づくり事業 (K A R A T E N 会)	公園清掃活動に取り組み、町の美化、災害時の被災地支援の取組み。	45,000 円

12	障害者ふれあいサポート事業 (カノンの会)	精神に障害を持つ人の居場所で、野菜作りを行うことで日中活動の機会を増やす。外出支援費用	100,000 円
13	室内用システム遊具購入事業 (平山保育園)	遊具により乳幼児の自発的な心身の発達を促し、事故防止の予防に役立てる。	150,000 円
14	青少年育成事業 (ピースのおうち)	孤立しやすい家庭の交流を図り、信頼のある地域づくりの取り組み。	90,000 円
15	高齢者ふれあいサポート事業 (やろう会)	男性が集い交流を深め、仲間づくりと生きがいにつなげる。	48,000 円
16	手話ボランティア養成事業 (手話サークルにここ)	月に2回手話サークルを開催し、会員のレベルアップを行う。	48,000 円
平成26年度一般募金助成額合計			1,560,000 円

小・中学校応援プロジェクト募金助成金

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	あいさつの花を育てて、宇多津の町を花いっぱいにする活動 (宇多津小学校)	あいさつを啓発する植木鉢を作成し、「あいさつの花をさかせよう」を合言葉に、直接児童が地域住民の皆様に植木鉢を持っていき、募金のお礼と、あいさつをひろげようとする気持ちを伝える。	180,242 円
2	自転車を安全に乗るための自転車用交通安全シートの作成・配布事業 (宇多津小学校・宇多津北小学校)	3年生以上の児童に、自転車の左側通行の徹底や交差点を渡るときの注意等をわかりやすくデザインしたゴム製シートを作成し、自転車に装着することで、常に安全運転を意識できるようにする。	231,984 円
3	「げんき・きれい・いのち」プランターで、花いっぱいになあれ大作戦 (宇多津北小学校)	学校の合言葉である「げんき・きれい・いのち」をプランターに印刷し、その中に四季折々の花を植える。花の咲いたプランターを駅や遊歩道前の家に設置してもらい、これを目にした人が心を穏やかに安心して過ごせる、明るい町づくりに協力する。	320,400 円
4	自転車左側通行の注意喚起看板の設置事業 (宇多津中学校)	電柱に安全運転の啓発看板を設置することで、視覚的な注意喚起を図る。デザインは遠距離からもしっかり見える大きなピトグラムを中心とした交通標識にする。中学生だけでなく宇多津町全体で交通安全意識の高揚を図ることができ、町内の交通安全防止に大きくつながる。	321,840 円

5	<p>ボランティア銀行事業 (社会福祉協議会)</p>	<p>ボランティア銀行は、ボランティア通帳にハートが貯まっていくのを目に見える形で楽しみながらボランティア活動に取り組めるように応援しており、小・中学生が地域のボランティア活動に参加することによって地域の人との交流を深め、宇多津町が明るく元気な町になる。</p>	<p>314,652 円</p>
<p>平成26年度プロジェクト募金助成合計額</p>			<p>1,368,447</p>